

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 熊西 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

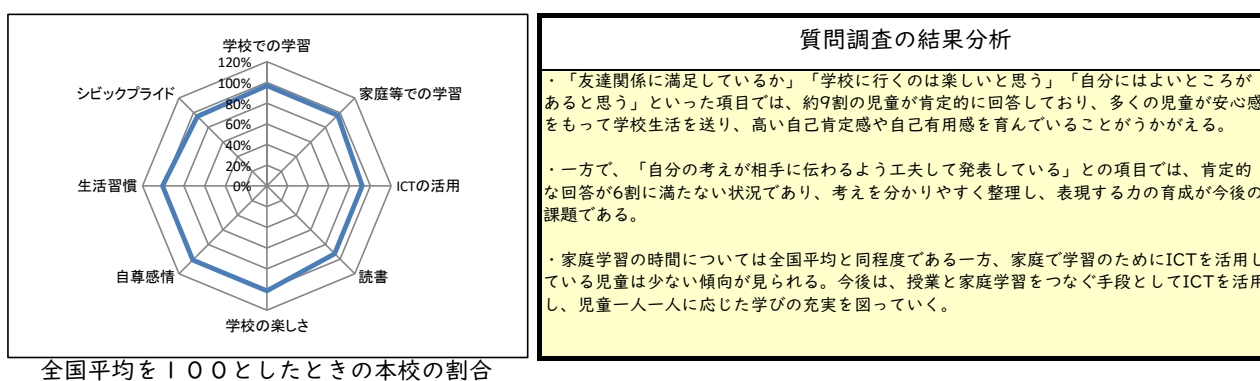
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	思考・判断・表現に関する問題については全国の平均正答率を上回っているが、知識・技能を問う問題の言葉の特徴や使い方に関する事項をやや苦手としている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる問題や、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	事象や行為を表す語彙について理解しているかどうかをみる問題や、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる問題	
数学	全体的な傾向や特徴など	すべての領域で全国の平均正答率を上回っている。とりわけデータの活用する問題や数と式の問題は全国平均を大きく上回って答えることができている。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	素数の意味を理解しているかどうかをみる問題や、多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善することができるかどうかをみる問題や、事柄が常に成り立つとは限らないことを説明する場面において、反例をあげることができるかどうかをみる問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「エネルギー」を柱とする領域の選択式問題や「地球」を柱とする領域の記述式問題などは全国の平均正答率を上回っているが、「粒子」を柱とする領域の記述式問題は下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題や、地域の言い伝えを科学的に探究する学習場面において、大地の変化と、地層の様子やその構成物に関する知識及び技能を関連付けて、地層の重なり方や広がり方を推定できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	化学変化に関する知識及び技能を活用して、実験の結果を分析して解釈し、化学変化を原子や分子のモデルで表すことができるかどうかをみる問題や、身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

学力調査や生徒質問紙や結果から見られる「考えを分かりやすく伝える力」や記述式問題への課題を踏まえ、主体的に学ぶ姿勢を生かしながら、ICTを活用して考えを整理・可視化し、対話や振り返りを通して思考・判断・表現力の向上を図っていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

起床・就寝時間や朝食の状況から、生活リズムは比較的安定していることがうかがえる。一方で、家庭での学習や読書、ICTを学習に活用する取組については、十分とは言えない面が見られる。今後は、授業と家庭学習をつなぐICTの活用や、家庭・地域と連携した取組を進めていく必要がある。